

## 【院長挨拶】

昨年 12 月は概ね平年よりも気温が高いうえ、気温の変動が大きく、一方でインフルエンザの流行は昨シーズンよりも早くなっています。当院では 12 月に職員さんの一部にアウトブレイクが見られたものの、感染防止対策室を中心に初期対応が功を奏して、第一波は何とか乗り越えることができました。ただシーズンはまだまだ続いており、最近では入院患者さんにも散見されますので気を緩めるわけにはいきません。



加えて中国で発生した新型コロナウイルスによる肺炎は、春節の海外渡航と重なり気を抜けない状況です。

さて 2020 年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年であります。前回のオリンピックはその後の日本の高度成長経済へと繋がっていきました。それは「今日よりよくなる明日」という時代でした。翻って現在の日本はどうでしょうか。経済成長は頭打ちとなり、少子化・高齢化が急速に進み、なかなか楽観的な見通しが立てにくい時代になっています。そんな中でも今後 AI や IoT、ICT の発展に合わせて、医療の世界も変わっていかねばなりません。これからの 20 年、30 年後の世界を想像して、夢と志を持って行きたいものです。

寺柿 政和

## 【臨床研修機能評価受審】

日 時：2019 年 11 月 29 日（金）

場 所：東住吉森本病院

NPO 法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修機能評価を受審いたしました。本受審は 4 年に一回のもので、臨床研修病院は第三者の評価を受けることが望ましいとされ、大阪で約 20、全国で 230 余りが認定されています。今回は 2016 年 1 月の認定でしたので今回はその更新のための受審となった運びです。当院臨床研修事務局を中心に 1 年前から準備を行い受審に挑み、昨年 12 月 24 日に認定証発行が承認されました。



## 【令和元年度 大阪市保健所医療監視】

日 時：2019 年 12 月 3 日（火）

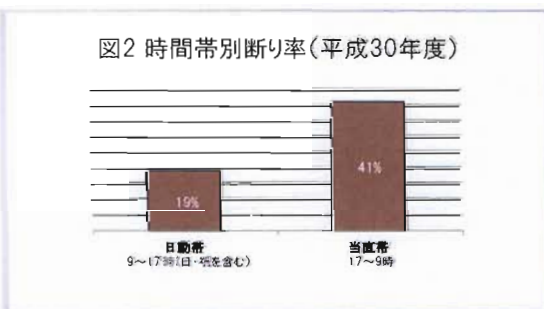
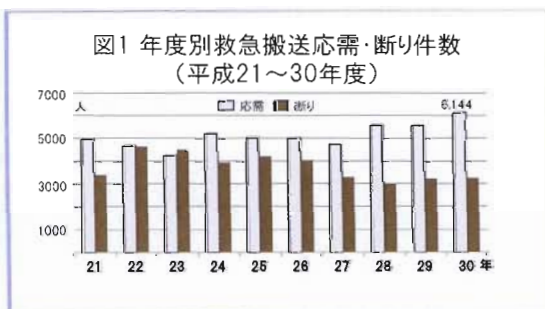
場 所：東住吉森本病院

今年度も定例の大阪市保健所による医療監視を受けました。臨床研修機能評価直後ということもあり比較的スムーズに実施され、講評の際の指摘事項も特になく終了いたしました。本医療監視は毎年実施されていますが、年々管理すべき項目も時代の流れに沿った新しい視点のものが追加されております。これまで以上のスピードで病院もバージョンアップしてまいります。



厚生労働省は救急診療や手術実績が乏しい医療機関として、424もの公立・公的病院を令和元年9月に公表しました。当院は公的病院ですが幸いこれらには含まれませんでした。また、大阪府は地域医療構想として救急指定病院でありながら救急診療実績が乏しい病院を回復期病院へ移行させようとしています。救急病院にとってこのような生き残りの時代に入り、救急の最前線である当センターの役割は益々重要になってきています。

過去10年間の救急搬送の応需と断りの数を示したグラフ(図1)をみますと、10年前と比較して、断りの数が徐々に減ってきて、応需の数が右肩上がりが増えてきているのがわかります。特に平成30年度は過去最多の6,144台の救急搬送を応需しました。一方、平成22年と23年だけ、応需と断りが拮抗または逆転しました。これは、当センターの診療科長が退職して、全科の疾患に対応するER体制が崩れたためでした。また、日勤帯と当直帯の比較(図2)では各科救急となる当直帯での断りが多いという事実もありました。これらのことから当センターでER体制を維持することの重要性がわかります。当直帯もER体制で対応できれば理想的ですが、一足飛びには実現しません。地域の需要に応えるためには、日勤帯は全て応需が当たり前、当直帯もまずみて決めるという原則で臨むよう徹底していきたいと思えます。



## 【連載 no.18】 緩和ケアリンクナース

緩和ケア病棟 師長 江口 由紀

緩和ケアは、ご自宅や一般病棟など、緩和ケア病棟以外の場所でも提供することができます。当院では2011年に大阪府がん診療拠点病院に指定されると同時に、緩和ケア委員会及び緩和ケアチームだけでなく、各部署につなぐ(リンクさせる)役割をもつリンクナースを配置しました。リンクナースは当院の緩和ケアの実施と質の向上を果たすうえで、重要な役割を担っています。今回はそのリンクナースをご紹介します。

### 【リンクナースの役割】

- 1: 診断時から患者と家族のつらさを早期に発見し介入(関わりをもつ)
- 2: 緩和ケアチームとの懸け橋になる(つなぐ)
- 3: 緩和ケアの提供(患者家族支援やスタッフ教育など)



### 【リンクナースの活動】

「緩和ケアの質の向上」と「緩和ケアチーム活動のサポート」を目的に、月一回の定例会議(知識や技術の学習を含め)を行っています。実際の活動内容は下記の通りです。

- ・対応困難事例の検討会
- ・苦痛のスクリーニングの実施
- ・緩和ケアチームラウンドへの同行
- ・各種勉強会の実施(アドバンス・ケア・プランニング、がん患者の症状マネジメントの実際、デスエデュケーションなど)

リンクナースは身につけた知識や技術をもとに、患者や家族に寄り添いその思いを受け止め、必要時は緩和ケアチームへつないでいます。これからも「縁の下の力持ち」的な存在である彼女らと共に成長していきたいと考えています。

インフルエンザの流行時や咳エチケットを行う際に必要となるのが「サージカルマスク」です。感染対策には必要不可欠な個人防護具ですが、正しい方法で使用することが大切で、当院でも正しい着用方法が守られているか、定期的に確認しています。マスクは正しく着用し、効果的に活用しましょう。

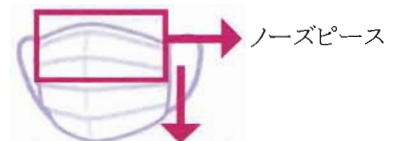
医療現場におけるサージカルマスクの着用目的

- 1) 医療従事者の呼気に含まれる微生物による汚染から患者を防御する。
- 2) 患者の体液や血液飛散から医療従事者を防御する。

〈正しいマスクの着脱方法〉

●サージカルマスクのつけ方

- ① ノーズピース（鼻周りにフィットさせるための針金）が上側、マスクのプリーツが下向きになるように装着する。
- ② ノーズピースを押さえ、鼻の形に合わせる。
- ③ 顎まで覆うようにプリーツを伸ばす。



※プリーツが下向きになるように広げる。

●サージカルマスクの外し方

- ① マスクの表面に触れないように耳ゴムを持ち、外す。
- ② マスクの表面に触れたり、丸めたりせずそのまま廃棄する。

〈こんな着用方法はやめましょう〉



口だけ覆い鼻  
が出ている



着けているマス  
クを顎にかける

※マスクの表面に触り、飛散物が内側に付着する恐れがあります。

【連載 no.02】地域医療連携の窓

平素より地域の医療機関および看護・介護施設の皆様には多大なる支援をいただき誠にありがとうございます。地域の皆様とスムーズな連携を図り、より一層良好な関係が築けるようにスタッフ一丸となって尽力していきます。さて、当院におきましては2003年2月に大阪府初の地域医療支援病院の承認を受け、地域医療の中核を担えるよう活動しています。今まで以上に各関係機関との連携を図り地域医療支援病院としての機能強化、地域包括ケアシステム構築への貢献を推進していきます。

【地域医療連絡室の取り組み】

〔共同指導を推進しています〕

紹介元のかかりつけ医の先生が実際に当院を訪れ、当院主治医と共同で患者さんの治療・および指導をおこなっています。

〔医療機器の共同利用を推進しています〕

医療機器（内視鏡・放射線機器・各種エコー）について、地域の医療機関の先生が当院の外来を経由せず、自院の機器を使用するように利用できる体制にしています。

〔研修会の提供を推進しています〕

当院で行っている様々な勉強会を地域医療機関の医師だけでなく看護職やメディカルなどの医療従事者にも参加していただけるよう機会の提供をおこなっています。研修会のご案内につきましては随時、お送りさせていただきます。引き続き、当院の地域医療の運営に、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、関連のスタッフ共々、宜しくお願い申し上げます。

## 【はつらつ健康セミナー ～こころとからだの健康レシピ～】

日 時：2019/11/12 (火)

13:30～15:00

場 所：東住吉森本病院 6F 講堂

地 域の皆さんを対象に医療に関する講演や

健康体操（演歌体操）を実施いたしました。

普段めったに聞けないピロリ菌や胃がんの話を専

門科の医師から説明があり皆さん興味津々でした。



## 【第8回 大阪市南部地区医療講演会を実施】

日 時：2019/11/30 (土) 17:30～20:00

場 所：都シティ 大阪天王寺 6階吉野の間

今年は、Session①で医療安全管理室と栄養科の講演があり、Session②では、放射線科の医師より新たに導入した3.0T MRIの話題や心臓リハビリテーション、当院の救急診療体制に関する講演がありました。会場からの質問も活発にあり総勢90名の参加で、盛況のうちに終わりました。ご参加いただきました地域医療機関の先生方、関係者の皆様方ありがとうございました。



## 【2019年度カイゼン活動本大会】

日 時：2019/12/14 (金) 13:30～16:00

場 所：6F 講堂

院内カイゼン活動（旧QC活動）の発表会を実施いたしました。院内各部署より発表があり、最終的に次の3部署が受賞いたしました。金賞：看護部／5北病棟、銀賞：管理部／地域医療課、銅賞：看護部／中央治療棟。当院は今後もカイゼン活動を通じて質の向上に努めます。

## 【認定看護師資格更新】

当院の荻田室長（感染防止対策室）が感染管理認定看護師、江口師長（緩和ケア病棟）、大原看護師（同病棟）が緩和ケア認定看護師の資格更新を致しました。認定看護師とは特定の看護分野において高い水準で看護を実践することを目的とした日本看護協会の資格制度です。



## 【第20回大阪病院学会】

2019年10月27日（日）に第20回大阪病院学会がグランキューブ大阪にて開催されました。当院では、臨床検査科・浅沼副技術部長が演題区分「医療安全」において「当院における薬品保冷庫の温度管理」で優秀賞を受賞、医事課・木村さんが演題区分「災害対策」において「災害に対する意識改革報告」で同じく優秀賞を受賞いたしました。



### ■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

### ■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

### ■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

## 東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ  
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m\_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平 日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代